静岡新聞

40th SBS CUP INTERNATIONAL YOUTH SOCCER
2016 SBSCUP 国際ユースサッカー

第1日

SBSカップ国際ユースサッカー（日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催、エコパハウス共催）は11日、藤枝総合運動公園サッカー場で開幕した。U―19日本代表はU―19コスタリカ代表と対戦し、後半に失点した日本が0―1で敗れた。静岡ユースはU―19スロバキア代表を相手に0―0（PK4―5）で、初戦を落とした。大会第2日は12日、沼津市の愛鷹広域公園多目的競技場で行う。

U―19スロバキア代表 0（0―0、0―0）0 静岡ユース（PK5―4）（2）（1）

【評】粘り強く守った静岡ユースはPK戦に持ち込んだが、最後の1人が外した。

静岡は5バック気味の守備ブロックを形成。相手の自由を奪い、前半は1本しかシュートを打たせなかった。後半ロスタイムにポスト直撃のシュートを浴びるが、無失点でしのいだ。

攻撃は相手の隙を突いたが、好機を生かせなかった。前半8分、清水颯のスルーパスに反応した望月はシュートを打てず。後半30分の久米のシュートもポストに阻まれた。

きのうの結果
スロバキア 0―0 静岡（PK5―4）
コスタリカ 1―0 日本

きょうの試合
静岡 16:00 日本
スロバキア 18:20 コスタリカ
（会場は愛鷹広域公園多目的競技場）

静岡 スロバキアにPK負け

堅守貫徹 手応え

先発の平均身長が184㌢という大柄なスロバキアに、静岡ユースは真っ向勝負を挑んだ。結果はスコアレスドローのPK負けだったが、廿日岩監督（浜松湖南高教）は「守備の部分はプラン通り。内容は良かったと思う」と貫いた堅守に満足そうだった。

189㌢の立田主将を中心とした3バックが安定し、引き気味に構えた守りで、スロバキアのサイド攻撃をことごとく封じた。「3バックが苦しい時に助けてくれた」と感謝したGK山ノ井は相手のハイボールにパンチングで応戦し、「高さで負けなかったことは大きい」と自信を深めた。

最大の決定機は後半30分。ゴール中央で短いパスをつないで相手DFを揺さぶると、途中出場の久米が放ったシュートは惜しくも左ポストをたたき、GKの胸元に収まった。久米は「好機がない中であそこは決めないと」と悔やんだ。

次戦は日本と対戦する。世代別代表入りを狙う山ノ井は「アピールするチャンス」と意気込み、久米も「全国高校総体に出場していない選手でもやれるということを証明したい」と気合を入れ直した。（萩原正司）

静岡ユースU―19スロバキア 前半、静岡の望月（左）がスロバキア選手からボールを奪う＝藤枝総合運動公園サッカー場

日本戦 アピール誓う

静岡 良い選手多かった

U―19スロバキア代表ミラン・マラチンスキー監督の話 静岡には良い選手が多かった。PK戦は賭け事のようなものだが、勝ててうれしい。静岡の堅い守備を突き抜けることができず、攻撃には満足していない。

【スロバキア】4・3・3
GK 山ノ井（静岡学園高）
シュークール 井岡（磐田ユース）
シリチェムツ 田口（JFAカデミー藤枝）
ボジピチェフ 水映（JFAカデミー藤枝）
ニャルカ 村（清水ユース）
シスコヴニャ 颯（JFAカデミー藤枝）
ヘルチェフ 月（浜松開誠館高）
クヴィーク 月（清水ユース）
ベラフ 墳（清水ユース）
ベラフ 田（富士市立高）
ツィチェス 31
ルルアラリ 11
HKK 山森
SCF 立下
G 清梅
HKK 清水
10 須
3 望
5 平
2 石
【静岡】3・4・3
GK 鈴木・浜松開誠館高
▽交代【静】久米・磐田東高（望月）
渡井・静岡学園高（石田）若山・静岡学園高（渡井）【ス】コソリン（ヴァイス）イェヂナーク（フリツ）ドゥベツ（ベラス）シャラタ（ヘルツ）

日本 コスタリカに惜敗

U―19日本―U―19コスタリカ 後半、守備をかわし相手ゴール前に切り込む日本の岩崎（左）＝藤枝総合運動公園サッカー場

U―19コスタリカ代表 1（0―0、1―0）0 日本代表（3）（0）

▽得点者【コ】ロハス（なし）

【評】日本は、攻守の切り替えの速いコスタリカに主導権を握られ、0―1で初戦を落とした。

序盤は日本ペース。前半8分、スルーパスに反応した岩崎のシュートは枠外に。CKなどセットプレーから好機をつくるなど相手ゴールを脅かした。

コスタリカは後半、右サイドを起点に好機をうかがった。21分に中盤からパスを受けたFWロハスのシュートが日本のDFに当たって方向が変わり、ゴールに吸い込まれた。

攻守両面で集中できた

U―19コスタリカ代表マティアス・アルネード監督の話 選手たちは攻守両面で集中していた。日本にスペースを与えず、運も手伝った勝利。非常にいい試合だった。

【コスタリカ】3・5・2
GK 小長谷川（早大）
グラ 浜（新潟ユース）
ボラ 岡（札幌ユース）
グレジア 賀（市立船橋高）
セアモビラ 山（柏ユース）
ヘルナ 菅（札幌ユース）
セコエ 原（名古屋ユース）
トロマ 井（市立船橋高）
7 平（神戸ユース）
3 崎（大分）
8 （京都橋高）
8 梶
8 杉
K 原
K 安
F 吉
G 岩
【日本】4・4・2
▽交代【日】中村・柏ユース（吉平）針谷・昌平高（梶）田川・島栖ユース（菅）野田・神戸ユース（安井）【コ】サリナス（アルボインマルティネス（コルドバ）エスピノサ（ビジェガス）マシス（ロハス）ゴンサレス（モレラ）ララ（マリン）

再三の逸機 響く

1点の重み 実感

日本は開始早々の逸機が響いた。前半3分に相手守備陣の背後に抜けた岩崎と吉平でつくったチャンスが相手GKの好守に阻まれ、8分の岩崎のシュートも枠を外れた。その後の再三の好機も生かせず、無得点。「決めきらないといけなかった」。岩崎は敗戦の責任を背負った。

今大会はチームの底上げを狙い高校3年生世代を中心にメンバーを構成。5人が初招集でチームの熟成度は低い。それでもコスタリカと互角の戦いを演じた。

シュートは相手の7本を上回る10本。失点の場面は、シュート阻止に入ったDFに当たる不運だった。ただ、負けた事実は変わらない。

内山監督は「1点の重みを感じてほしい」と今後の選手の成長に期待する。

試合前には、全員でリオデジャネイロ五輪の日本戦を観戦した。予選リーグ敗退が決まり、4年後の東京五輪を狙うメンバーは「次は自分たち」と気持ちを新たにした。

「決定力不足は日本人の永遠の課題。克服しないと上にはいけない」と岩崎。日の丸を背負って臨む残り2試合で、課題克服の足掛かりをつかむ。（岡田拓也）